



自生地前の苗木に記念碑を設置しました

令和3年3月に平松のウツクシマツ自生地周辺にウツクシマツの苗木を移植しました。その中でもウツクシマツ自生地の前のグラウンドには記念植樹として湖南市長、平松区長、三雲学区まちづくり協議会会長が合同で植えた苗木があります。

この植樹が平松のウツクシマツ自生地が国の天然記念物に指定された大正10年（1921年）から100年目の年に実施されたこと、そしてこの移植する1週間前に、平松のウツクシマツ自生地前で100年以上生きていたウツクシマツのシンボルツリーが枯死したために伐倒したことから、この苗木が次の100年を象徴するウツクシマツとなるように育てほしいとの願いをこめて、その苗木の横に記念碑を設置しました。

平松のウツクシマツ自生地のウツクシマツは減少の一途であり、このような若木たちが、これから大きく生長することが自生地の再生のためには必須ですので、湖南市としても平松のウツクシマツ自生地の周辺を含めた環境整備を進めます。



昨年植えた苗木



拡大





自生地内の下草を刈りました(今年度1回目)

平松のウツクシマツ自生地は特に夏頃になるとコシダやワラビ、ササ等の草が生長し、ウツクシマツ自生地の地面が見えなくなるほどになります。このような状態ではウツクシマツの若木が草に埋もれ、ウツクシマツの若木に日光が当たらないなど、ウツクシマツの生育に影響があります。このことから例年2回夏～秋にかけて自生地内の下草を刈っています。

今年度も6月頃から下草が伸び始めたので、7月に下草刈りをし、地面が見えるようにしました。

草を刈る場合には、ウツクシマツの若木が草に埋もれている状態で刈るので、ウツクシマツの若木も一緒に刈ってしまうおそれがあります。そのため、ウツクシマツの若木にはあらかじめ目印を付けておき、草刈りの時にはその場所に注意するようにしています。

草の生長は早いことから、夏に刈っても再度伸びてきます。ですので、夏の終わり～秋にかけて再度下草刈りをする予定です。

草で地面が見えない・・・



草を刈って地面が見えるように

